

「パートナー機能形態学 ヒトの成り立ち 改訂第2版」

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）対応一覧

2015.3 (株) 南江堂

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節		
(1) 人体の成り立ち		
③器官系概論	1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	(各章)
	2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	1章 1-2
④神経系	1. 中枢神経系について概説できる。	4章
	2. 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。	3章
⑤骨格系・筋肉系	1. 骨、筋肉について概説できる。	5章
	2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	
⑥皮膚	1. 皮膚について概説できる。	13章 13-5
⑦循環器系	1. 心臓について概説できる。	7章 7-1
	2. 血管系について概説できる。	7章 7-2
	3. リンパ管系について概説できる。	8章 8-2
⑧呼吸器系	1. 肺、気管支について概説できる。	9章
⑨消化器系	1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	6章
	2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	
⑩泌尿器系	1. 泌尿器系について概説できる。	10章
⑪生殖器系	1. 生殖器系について概説できる。	12章
⑫内分泌系	1. 内分泌系について概説できる。	11章
⑬感覚器系	1. 感覚器系について概説できる。	13章
⑭血液・造血器系	1. 血液・造血器系について概説できる。	8章
(2) 生体機能の調節		
①神経による調節機構	1. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	2章
	2. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	3章
	3. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	4章 4-3
	4. 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	5章 5-2
②ホルモン・内分泌系による調節機構	1. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	11章
④サイトカイン・増殖因子による調節機構	1. 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	8章 8-2
⑤血圧の調節機構	1. 血圧の調節機構について概説できる。	7章 7-2
⑥血糖の調節機構	1. 血糖の調節機構について概説できる。	11章
	1. 体液の調節機構について概説できる。	4章 4-3 10章 10-1
⑦体温の調節	2. 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	10章 10-1
	1. 体温の調節機構について概説できる。	4章 4-3
⑨血液凝固・線溶系	1. 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	8章 8-1
⑩性周期の調節	1. 性周期の調節機構について概説できる。	12章